

# 民児協 あこう

広げよう 地域に根ざした 思いやり

第46号 平成27年 春号



御崎幼稚園「みさき・げんキッズ・チャレンジタイム」

継続は力ないを合言葉に

## 民生委員児童委員信条

一、わたくしたちは、隣人愛をもって、社会福祉の増進に努めます。

一、わたくしたちは、常に地域社会の実情を把握することに努めます。

一、わたくしたちは、誠意をもって、あらゆる生活上の相談に応じ、自立の援助に努めます。

一、わたくしたちは、すべての人々と協力し、明朗で健全な地域社会づくりに努めます。

一、わたくしたちは、常に公正を旨とし、人格と識見の向上に努めます。

## 児童憲章

児童は、人として尊ばれる。

児童は、社会の一員として重んぜられる。

児童は、よい環境の中で育てられる。



# 各地区活動報告

## 赤穂・城西地区 「赤穂中学校のあいさつ運動」

恒例の赤穂中学校の「あいさつ運動」に3月3日赤穂・城西地区民生委員も参加し、元気にあいさつをしました。

教職員・民生委員・PTAが校門下側の坂道で、「あいさつ運動実施中」のぼり旗を持ち、笑顔で生徒達を迎えおはようございますと言葉を掛けました。

生徒もそれに応じておはようございますとあいさつが有り、気持ち良い「あいさつ運動」となりました。

あいさつは意思疎通の切り口です。礼儀作法はあいさつに始まりあいさつで終わります。民生委員は「あいさつ運動」を支援します。



## 塩屋地区 「笑顔でごあいさつ」

11月27日(木)、塩屋保育所では、毎年恒例の万寿園のデイサービスをご利用されている塩屋地区の高齢者の方々との交流会がありました。

保育所の遊戯室において、0歳から6歳までの67名の子ども達が元気な声で歌の披露をしたり、握手でスキンシップをしたりしました。

また、最年長のわかくさ組の子ども達と、わらべ唄あそびを楽しんだり、一緒にお茶をいただいたりして、心温かなふれあいのひとときを過ごしました。

## 尾崎地区 「食事と健康 高齢者見守り研修会」

2月16日(月)、尾崎地域福祉連絡会は、赤穂市保健センター及び社会福祉協議会の方を講師として、塩分を摂りすぎた時の体の状態やウイルス菌と病気との関わりについて、より良い食事の摂り方、高齢者見守り活動について勉強会を行いました。

どの講話も日常生活にとっても役立つ内容でした。今回の学びを生かし、これからも地域社会に求められ、役立つようがんばっていきます。



## 西部地区 「たのうら学習発表会を参観して」

2月6日(金)伝統のたのうら学習発表会の参観をしました。

西小学校全校生徒94名と保護者、地区の方々、関係者で体育館は満員でした。

内容は、自然体験学習で学んだ事を、一年生から六年生まで、学年毎にテーマを決めて、全員が役割を持ち発表します。観察や、校区内の紹介、歴史探訪等々、館内は児童の発表に釘付けです。子どもの成長、感覚の鋭さ、物の見方、考え方、感動の連続です。知らなかった実情について子ども達に教えられる事も多く、勉強になりました。児童も満足感と安心感で笑顔が漂っていました。きっと、一生の良い思い出になると思います。この発表会は、地域の人々とのコミュニケーション作りにも役立っています。

# 民生委員児童委員会

## 御崎地区

### 「歳末たすけあい友愛訪問活動」

2月27日(金)、御崎地区では歳末たすけあい事業として、友愛訪問を実施しました。手作りのお弁当にお菓子・手作り小物・お便りを添えて高齢者宅を訪問しました。毎年、工夫を凝らして小物を手作りしているのですが、今年は持ち寄った布で一つ一つ心を込めてふくろうを作りました。

「ふくろう」は「福来郎」「不苦労」などといった縁起のよい吉祥な当て字で「福が来る」「苦労がない」などを願った縁起物です。



## 坂越地区『坂越っ子』マラソン大会！よーいドン！

今年も恒例のマラソン大会が“坂越ふるさと海岸”で開催され、多くの保護者や地域の皆様のあたたかい声援をうけ、子ども達は最後まで真剣に走り、全員頑張って走ることができました。今年は「あきらめない力」をテーマに1位を全員で目指して走りました。よく頑張りました！

今年も入賞者には地域の方のご厚意により、金銀銅のメダルが授与されます。『学校だより 2月号より』

毎年暮れには、ひとり暮らし老人・高齢者夫婦の方々にお配りするお餅に添える“お手紙”を全校生が書いてくれます。お年寄りの皆様が大変喜んでおられます。ありがとう『坂越っ子』。

## 高雄地区

### 「地区活動報告」

当地区では毎月の定例会議、年3回の研修会、年賀状、暑中見舞いの送付、市の事業、社協の事業、そして「まちづくり」の事業にと積極的に参加協力し、その活動範囲は多岐にわたります。それらの行事を全て民生委員、推進員が一緒になって行っている事が一番の誇りだと思っています。組織的には区別はありますが我々の間ではそんな意識は全くありません。この良き関係を持ち続け、これからも福祉活動に頑張ってゆく所存です。



## 有年地区

### 「卒業証書授与式」

有年中学校は市内で一番生徒の少ない中学校です。そのため運動部などの数も少なく自分のやりたい部活等に限度があります。しかし、マモルンジャーによる施設訪問により防犯活動を行うなど、他校にない活動もしています。先日行われた卒業式では、生徒一人ひとりが校長先生より卒業証書を授与された後、来賓の皆さんが順番に花束を渡してお祝いしました。

# 認知症サポーター

認知症サポーターについて民生委員と地域福祉推進委員との合同

の研修会が2月10日（火）に赤穂市総合福祉会館で行われました。



認知症はだれにでも起こりうる脳の病気によるもので、85歳以上になると4人のうち1人に認知症の症状があるとされています。しかし、皆が認知症について正しい知識を持ち、助け合う事が出来れば、認知症の人

もその家族も穏やかに暮らすことが出来ます。認知症になっても安心して暮らせるまちを作るキャンペーンで「認知症サポーターキャラバン」をはじめています。認知症の症状は中核症状と行動・心理（BPSD）の大

きく2つに分かれます。中核症状は脳の細胞が死んでしまいくち起る症状（治らない）と行動・心理（BPSD）は心の状態や性格・環境によって出る症状（周りの人の助けがあれば良くなります）です。大切な事は早期診断、早期

治療です。認知症の人と接する時の心構えとして、（1）認知症になったことに傷つくのは本人であり、一番心配で心細く苦しんでいること。（2）認知症の人は態度や行動に、やり場のない怒りや不安が隠れた悲しみの表現であることを知っておく事が大切です。

認知症を正しく理解し、認知症の人や家族を温かい目で見守る人、認知症サポーターが必要です。「認知症サポーター養成講座」を受講した人が認知症サポーターになれます。認知症サポーターは支援の表示としてオレンジリングを腕にしています。



## 共に育ちましょう！

「包丁は危ない物！って使い方を教えずに持たせる親がいますか？ケータイはどうですか？ケータイの使い方を教えずに持たせることは危険です」夜回り先生こと水谷修氏のお話で心に残った言葉のひとつです。

ケータイやパソコンに限らず、学習用タブレット・ゲーム機・音楽プレーヤーなどインターネットに繋がる道具はたくさんあります。使い方によっては詐欺・個人情報漏洩・いじめなどの問題が起こるかもしれません。

初めて包丁を使う時のように、初めてインターネットを利用する時には何がどう危険なのか説明しましょう。そして「使う時間は夜9時まで」や「リビングで使う」など使い方のルールを決めてはどうでしょう。与えた後に親が押し付けるルールでは子どもは守ってくれなかったというのが我が家の失敗例です。

ポイントは与える前にルールを決めることです。できなかったことに目がいきがちですが「なんでできないの！」「ダメじゃない！」と否定してはいけません。できたことは「よくできたね」「偉いね」と肯定しましょう。

人は認められることが生きる力に繋がります。親子で認め合い共に育っていきましょう。

## 編集後記

少子高齢化が進む中、各地区の社会福祉活動の取り組みを紹介させて頂きました。

今後とも民生委員児童委員福祉活動について市民の皆様へ「あこがれ」を通じて発信させて頂きます。

